

登録番号 16 — 009

氏名 下山 陽介

登録番号 18 — 002

氏名 池田 弘志

## 大阪市地域公共人材活動報告書

1. 派遣日時 令和5年2月26日（日）19：00～21：00  
(第2回次)
2. 派遣団体 にこパパねっと
3. 参加人数 10名（内訳：依頼団体7名、地域公共人材2名、大阪市市民局1名）
4. 活動内容

### （1）派遣内容

団体の活動を知つてもらう為、今までではFacebookなどのSNSを活用して発信したが、それだけでは伝わる範囲に限りがあり、またアカウント乗っ取りなどのリスクもある。団体のこれまでの活動を沿革として振り返る事が出来たり、団体の理念等をより分かりやすく、多くの人に伝えるためのホームページを作成するにあたり助言を行う。

### （2）支援内容

前回の内容を受け、団体の現状認識やメンバーの想いの共有などを目的としてディスカッションを支援し、以下の成果を得た。

#### ● 「にこパパ」を一言で表すと？端的に紹介するなら？

- ・スローガンを伝える  
(パパの笑顔で子どもと町を元気に)
- ・にこネットの応援
- ・地域の子どもと遊んでいる  
(その間ママが楽出来る)
- ・サークル活動
- ・区で縁のあるパパの集まり
- ・本気で子どもを樂しませる
- ・パパ同士が繋がる趣味の団体

#### ●課題感や問題提起

- ・会場が広くなると団体内の連携、連絡が難しくなる
- ・現12人のメンバーが20人程度まで増えるとやりやすくなる  
各イベント毎にもう3人ほど増えてほしい
- ・リーダーの旗振りが団体活動にとって重要、  
リーダーのやりたい事を支えていきたい
- ・一方で、リーダーとしてはメンバーからの「やりたいこと」が出てきて欲しい。  
その方策として、年に1度程度、メンバーそれぞれが「やりたいこと」を団体のイベントとして実施することを年次計画に盛り込んでも良いのではないか。

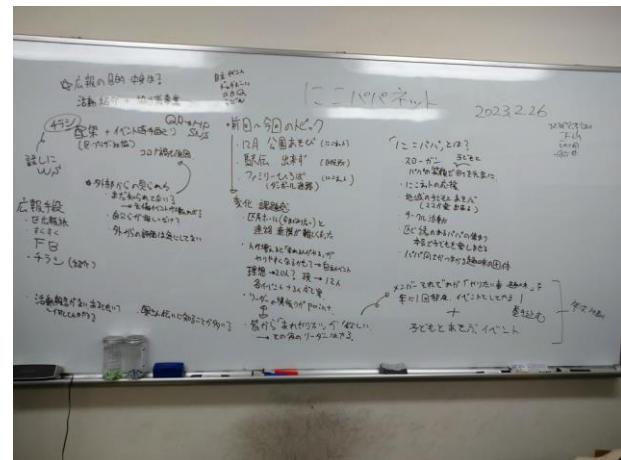
#### ●外部からの印象

- ・そもそも認知度が低い。コロナ禍でイベントが出来ていない事が原因かも？
- ・自分たちが楽しんでいるだけ、と見られているかも。

・外部からの評判を気にしたことがない。

- では、対外的にはどのような内容を発信するのが良いか
  - ・活動紹介、やっている内容がよく伝わるもの
  - ・協力者を募集していること

大きくは以上のような内容でディスカッションが進み、積極的な意見交換が図られた。結果として、まずは取り組みやすいチラシを実際に作成してみる事となった。次回、ワークショップ形式として全員参加で進めていく。実際に手を動かし、内容を考えながらワークを進めることで、具体的な広報内容の合意が図られていくことを期待する。



### ① 次回に向けて

団体として対外的に発信するチラシの内容をそれぞれ考えて持ち寄る。また、参考にしたいチラシや広報物があれば持参する。

### 所感

諸事情から半年ほど時間が空いての場であり少々前回の内容がメンバーの記憶から薄まっているように感じながらのスタートであったが、ファシリテーターが交代していたことでうまく角度を変えながらおさらいから次のテーマまでを話し合うことが出来たように感じる。メンバーの納得感を大事にしたかったため、話し合いの内容や着地点に飛躍がないよう留意して進めた結果、前向きに次回の場を受け止めて頂けたと思う。

### 所感

約半年ぶりの二回目ということで、依頼団体内のモチベーションの継続が心配であったが、前回と同様の熱心な議論になり、安心した。

今回は自分がファシリテーションすることになっていたので、下記のような手持ちのメモを作って持参した。(配布はしていない。)

団体のメンバーが持つ「自画像」や、今後の活動に対する「将来像」については、持参のメモに近い意見や議論がメンバーから提示され、お互いに議論でき、正直驚いた。

新型コロナウイルスの感染が継続する中でも、地域活動が徐々に再開されていることから、この半年間にいくつか具体的な活動を実施できたことが功を奏したようだ。

広報、情報公開については、団体設立時の情報発信(チラシ等の作成)やSNSへの継続した投稿を団体の方行っているが、経験が無いメンバーもいて、ホームページの作成に議論を移すのは難しいと考え、紙と鉛筆があれば実行可能な「チラシ作成のワークショップ」を提案した。

広報に必要な、「何を」「誰に」「どう」伝えるのか、考える機会を提供できると思う。

実際に配布するチラシの作成(デザインや印刷)やホームページの作成(サーバーの確保、サイトの設計、具体的な記事の作成等)については、地域公共人材の役割を超えるので、次回の派

貴でアドバイスをしたい。

----- (持参メモ) -----

にこパパねっと 仮説

・「にこパパねっと」とは

パパ（でなくてもいいけど・・）が、自分一人ではやれないことをやってみたいと思って集まれるところ。

やりたいことは、地域活動とか公益活動でなくても良い。趣味が嵩じてとか、単に面白そうだからと言う興味だけでも良い。

ただし、実現する「場」は、地域活動や公益活動の枠の中になる。

・これまでの実績から見る「にこパパねっと」の良いところ

既存の地域活動の中に入らずに、側面から公益的な活動に関われる。

活動内容に制約が無い。（企画、予算、人員）

組織の継続や活動の継続についての責任を問われない。お互いに問わない。

・広報、情報公開について

ホームページ（新）

「にこパパねっと」の良いところ

活動の記録（文字ベースで。打ち合わせ会議を含む。）

メンバー紹介

フェイスブック

活動の事前周知、告知

活動の記録（写真等）の周知

（新）活動のアイデアと人材をセットで募集

何かやりたいことがあるけど、自分だけではできないアイデアを持つ人を募集。

メンバー会議で実施を決定したら、アイデアを出した人がリーダーになり、実現に向けて取り組みを進める。